

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800174		
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	ヒューマンライフケアグループホーム市川		
所在地	千葉県市川市須和田1-11-13		
自己評価作成日	令和5年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令5年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【スタッフ育成】 ・全体会議時に、社内資格の実施。 ・オンライン研修システムの受講 ・個別面談の実施、各スタッフの目標設定と能力、行動評価の実施。
【ICTの推進】 ・介護記録の電子化、社内方針のICT化による業務改善、軽減の実施。
【行事の継続】 ・感染防止(各フロア開催)をしながら、行事の再開、毎月の行事開催継続 ※コロナウイルスクラスター時を除く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ヒューマンライフケア株式会社、すべての人を尊重し、いつでも笑顔で触れ合い、互いを思いやり、そっと支えあう「笑顔とこころ、いつでも“人”が真ん中。」を原点に置いた施設運営を目指している。「ヒューマンライフケアグループホーム市川」の職員がその想いを共有し、サービスの提供に取り組んでいる施設である。定期的に内科医の往診や歯科医による往診が行われており、適切な医療支援がなされている。往診の医療機関とは24時間体制で連携していると共に、施設に常勤の看護師が配置されており、入居者の状態変化に応じた迅速な対応がなされている。現在コロナ禍の為、外出や地域との交流活動は見合わせているが、地域の移動販売車の活用・敷地内での園芸活動や外気浴・施設内でのレクリエーション活動や音楽療法等により、入居者の気分転換や生活活性化を図っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成した理念となっています。職員は利用者一人ひとりの個性を尊重し、馴染みの暮らしを笑顔で続けられるよう支援を念頭に、理念の実践に努めています。理念は職員・ご家族様の目の届く場所に掲げ共有しています。	「人生の先輩に謙虚な姿勢で臨みます。笑いの絶えない伸び伸びの輪。地域の触れいを大切にします。お話を聞くのが大好きです。季節の移り変わりを大切にします。」という施設理念を掲げている。法人理念・施設理念・運営方針等を施設内に掲示していると共に、研修・会議・申し送りで振り返りを行い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報は自治会報で得ています。コロナ禍では外部との交流は自粛中です。地域との交流やふれあい、ボランティアとの交流はコロナ禍の終息を待っているところです。	日頃の挨拶や自治会の加入を通じて、地域との繋がりを大切にしている。現在コロナ禍の為、地域との交流は見合わせているが、週1回地域の移動販売車が来所しており、入居者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	移動スーパーが毎週訪問。施設駐車場に止め近隣の方がお買い物される。その際、利用者様とのコミュニケーションの場ともなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター担当、家族、利用者です。コロナ禍では内部の書面会議で2ヶ月ごとに行っています。運営や活動状況の他、意見交換は運営に活かしています。	地域包括支援センター職員・家族等を構成員として2か月に1回、運営推進会議を開催しており、活動報告や意見・情報交換を通して、事業所の運営やサービスの質の向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍による対応などの情報交換は行政からの情報開示を受けています。	市の担当者とは、日頃から業務上の相談や報告を通して、協力体制を構築している。	

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	方針は運営規定に明記しています。研修の実施や定期的に開催する「身体拘束廃止委員会」を通して周知しています。職員は身体拘束の弊害について理解しています。不適切な言葉の事例があれば管理者は注意指導をしています。「虐待、身体拘束自己チェックシート」で確認をしています。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施する等、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催していると共に、年2回虐待、身体拘束チェックシートによる確認を行っており、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止法」について定期的に研修を実施し、周知徹底に努めています。虐待防止について、「身体拘束廃止委員会」と一体で行っています。「虐待、身体拘束チェックシート」で身体拘束と同様に年2回ふり返りを行い、確認をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている利用者様が居る。そのため管理者は権利擁護や成年後見制度についての理解を図るよう努めているが、職員への周知・研修などは行っていない。次回、研修を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の問い合わせや契約の際に、施設長もしくはブロック長にて行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍での家族の面会は時間を決めて行っています。 電話やメールで意見交換をしています。 家族とは個人の心身の状況など手紙で返信しています。	面会や電話連絡・運営推進会議を通して、家族から意見・要望等を確認している。挙げた意見や要望等については、会議などで検討し、速やかな対応を心掛けている。また、手紙や市川便りで日々の生活や活動状況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議、個人面談の機会に意見や提案などを聞く機会を作っています。施設長は日頃から職員が自由に意見、要望が言える職場環境を作っています。職員の施設内の整理整頓、業務の改善、行事やイベントの企画提案など運営に活かしています。	定期的に全体会議やユニットごとのカンファレンスを開催しており、職員の意見や提案等を確認している。また、管理者による個人面談を通して、職員一人ひとりの意見や思いを確認し、働きやすい職場環境の整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事の成果や目標達成の評価など人事考課に適正に反映しています。有給休暇の取得は希望を添うように配慮している。職員のシフト作成は希望や諸事情を反映して作成しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の充実した年間研修計画があります。資格取得の支援に併せて、社内の資格取得認定制度があります。新人から現任職員や施設長など各課程の進級昇進の制度があります。職員はより高度な知識や技術が身に着くよう人材の育成に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修、オンライン研修を通して各施設との意見交換などを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人様と面会し、少しでも緊張がほぐれる様に取り組んでいる。入居後は本人様の困りごとが減るように傾聴に努め、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前こそしっかりと話しあっています。ご本人様の事を伺いながらご家族様のお気持ちを受け止め、入居後は近況報告を行いながら「いつでもご連絡下さい」と伝え、ご家族様のペースが作りやすいように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査書を、全職員が情報を共有し、1ヶ月間は暫定のケアプランにて、どのような支援が必要かを見極め、カンファレンスし対応しております。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できる事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支え合う関係が築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族の良い繋がりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族と職員が協力してご利用者様を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接の面会は制限があるが、関係継続のため、電話の取次ぎ、手紙での交流を支援して関係継続に努めている。	家族等との交流継続や散歩等の外出により、馴染みの人や場所等の関係を支援している。現在コロナ禍の為、家族等とは窓越し面会により、相互の関係を大切にしている。また、移動販売車の活用を通して、地域との繋がりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	これまでの生活歴、性格、利用者同士の関係等の把握に努め、配席の工夫、適時職員が間に入るなど、利用者同士の交流を各ユニットを往来し、個性を活かした食器拭き、裁縫、壁紙飾り作り、メモ用紙作り等役割を持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人宛の郵便物の返送、電話連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向は、入居時のアセスメントや家族から聞き取り、日頃の会話から把握している。 把握の困難な方からは表情や仕草から把握に努め、把握した情報は申し送りノートで職員間で共有している。	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入所後も意向や思い・身体状況等の把握に努めており、会議等で検討や確認を行い、現状に即した支援に活かしている。	

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事実調査で把握し、入居時に馴染の所持品等を持参して頂ける様に支援し、入居後においても本人からのメッセージ、願望を家族様と共に情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事、水分量、排泄の健康管理は毎日実施し、その時の様子も生活記録に落としている。一人ひとりの生活のリズムを把握し日々の変化に充分気を付け共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期目標の見直しは6ヶ月ごとです。モニタリングは全員で行い、フロア会議で利用者の状態把握と課題の達成状況の検討、短期目標が達成した場合は随時見直しをしています。本人の希望する自立目標を検討し、家族の意向を反映して現状に即した介護計画を作成しています。	本人や家族の意向を配慮した上で検討会議を行い、介護計画を作成している。また、医師や看護師からの意見確認も行っており、現状に即した支援内容となっている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のご様子を様々な記録に記入し、職員間での情報共有を図っています。また、問題点は速やかに対応方法などを検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族の意向を聞き、ご利用者様の状況を判断して会議などで議題に挙げて支援している。日々の変化を感じ取りその時に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週、施設駐車場の訪問販売が訪問地域資源として活用している。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の同意を得て事業所の協力医療機関をかかりつけ医として全員が訪問診療を受けています。 専門科目の受診は家族が同行しますが、急を要する受診は職員が同行し情報を共有しています。	定期的内科医による往診や歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援がなされている。また、家族の協力も得ながら希望の医療機関の受診も支援しており、相互に情報共有や情報交換を行っている。往診の医療機関とは24時間の協力体制が整備されていると共に、施設に常勤の看護師が配置されており、入居者の状態変化に応じた迅速な対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤として勤務している。 日々、健康管理の徹底。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は今は面会が出来ない為、こまめにご家族、病院と連絡を取り合い状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化に対応する指針、看取りケアに関する指針」を入居時に説明をしています。職員は終末期ケアの研修を受けています。重度化した場合は「意思確認書」を交わし、家族、医療関係者、職員と連携し、方針を共有し支援する体制ができています。	重度化・終末期の対応については、契約時に施設の方針を説明し、意向を確認の上同意を得ている。重度化した場合や終末期は、医師・看護師・職員・家族で支援方法を検討し、方針を共有した上で、出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時の手順や、マニュアルは各フロアに配置、定期的確認や見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者・職員が参加して避難・救出訓練を年に2回と地震の訓練を実施しています。水、食料品、充電器などの防災グッズを備蓄し、リスト化して半年に1回保管期間などの確認をしています。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防署に申請を行った上で、自主消防避難訓練を行っている。訓練では、火災や地震を想定した訓練・通報訓練・消火器訓練等を実施しており、避難や対応方法を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の際は小声で自尊心を損なうことがないように注意しています。利用者の状態により、トイレ内では利用者の排泄の体制を整えた後はドアの外で待機しています。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修・会議を通して、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援を心掛け、その人らしい生活の実現に向け、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、可能な限り自己決定ができるよう対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体でその人に合ったペースで満足頂けるよう配慮支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時には利用者様にその日着る服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立があり、食材業者からほぼ毎日食材が届きいている。 常食・やわらか食・ムース食があり、その方にあつた食事を提供している。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立や食材の配送は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、季節に合わせた行事食等も取り入れており、食に対する楽しみを支援している。その他、地域の移動販売車が来所した際に、好きな食べ物の購入を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と摂食量のチェック等、毎食記入し、記録を残し対応しています。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来るところまで本人が行ない、出来ないところは職員が介助して、清潔を保持しています。必要に応じて歯科医の往診があります。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立できる援助をするよう、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、仕草や経験からタイミングよく誘導しています。失禁したときの気配りや処理、利用者と職員の相互の信頼の上で支援していくよう努めています。	入居者個々の排泄状況や排泄パターン及び水分・食事を把握した上で、なるべくトイレで排泄が出来るように適切な支援を行っている。日頃から、食事・水分・運動等を工夫し、必要時には、医師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、乳製品、服薬、食事などにて、その人に合った対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴頻度は週2回～3回、最低2回は入浴しています。その日の体調や希望を見ながら順番を決めたり、対話しながらの誘導、清拭など臨機応変に対応しています。基本一人対応とし、会話などの楽しむ工夫もしています。	入居者の体調や希望に応じて、適切かつ柔軟な入浴を支援している。必要に応じて、足浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に熟睡できるよう、昼間の活動を多く持ち、レクや歌の時間を設けています。体操の時間を長くしたり、体調に応じて昼寝の時間を設け休憩を取ってもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の病状を捉え、薬の目的・副作用・用法・用量について理解し、服薬支援をしています。服薬変更時は症状確認を怠りません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族等より生活歴や好きな事の聴衆をして、楽しく1日を過ごせ、気分転換が出来るよう支援しています。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、外出は控えていますが施設周辺の散歩は短時間、短距離で行っている。施設の庭での日光浴は天気の良い日は行っている。	日頃から散歩を通して、地域の人達と触れ合う機会を設けている。また、週1回地域の移動販売車が来所しており、買い物の楽しみを支援している。現在コロナ禍の為、外出や交流活動は見合わせているが、敷地内での園芸活動や外気浴、施設内でのレクリエーション活動や音楽療法等により、入居者の気分転換や生活活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方から預かったときは、出納帳に記入している。施設駐車場に移動販売が訪問された際は、お金をお渡しし、ご自身でお支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙のやり取りや知人との手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は日当たりがよく、清潔である。リビングは、季節の飾りなどの装飾や花を飾るなど、利用者が季節を感じる事ができるように工夫している。	施設内はソファやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境作りがなされている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にもソファを設置している。1Fにはテラスを設け、ベンチを設置しのんびり過ごすことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、ずっと使ってきた机、タンスや時計を置いたり写真を飾るなど、それぞれ居心地の良さそうな居室にしている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの理解に合わせ居室に表示なども工夫している		